

◎生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、地域の活性化に貢献する学校

1 少人数クラス編成による個々の生徒への丁寧な教育の実践

課	昨年度の課題と身に付けさせたい力	具体的取組	評価指標・達成基準	自己評価(中間)		自己評価(最終)		総合
				達成状況	評価	達成状況	評価	評価
○教務課	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての生徒が所持している一人一台端末の、授業内での活用方法に関する事例の蓄積が不足している。 R6年度で全学年が新教育課程となるシラバスの整備が完了していない。 <p>【身に付けさせたい力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学びに向かう力、人間性 知識及び技能 思考力、判断力、表現力 	<ul style="list-style-type: none"> ipadの先進的な活用を行っている教員の取り組みや、新しく導入されたアプリケーションの活用方法を共有する。 シラバスの内容について教科間で共通理解を図り、指導・評価を行う。 OJTで、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業研究・改善を進める。 授業公開への積極的な参加を呼びかけ、授業改善を図っていく体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート②(グループ学習、ICT活用)：生徒の肯定的回答70%以上 シラバスの内容を踏まえた指導が行われ観点別評価が適切に行われ、教科・学年で指導に活かされている。 各教員が年2回は授業公開を行っている。 実践報告がなされ成果が共有されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価については年度当初に、教科会議を開いて、教科で共通理解を図っている。 授業研究については、主幹教諭と共にポイントチェックシートが作成され、授業を見学している。 教育センターの指導主事を招聘し、公開授業を踏まえた研修会を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> アプリケーションの活用法に関する教員研修を行い、授業や課題に活用されており、学校自己評価アンケート②(グループ学習、ICT活用)の項目における生徒の肯定的評価は78.3%であった。 年度当初及び各学期末に教科会議を開き、評価に関して共通理解を図り指導に活かされている。 授業公開については各教員とも2回以上行い、また互いに授業を参観し研鑽に努めている。 授業改善についてポイントチェックシートを活用し進められており年度末に実践報告と共に学科・コース毎の授業理念の検討がなされるよう準備が行われている。 	B	
○生徒課	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 失敗を極度に嫌うので、チャレンジする生徒が少ない。 <p>【身に付けさせたい力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 失敗を生かしながら、成功まで努力し続ける忍耐力 継続力 夢を見る力 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の状況をしっかりと把握しながら、応援したり、アドバイスしたり、時には一緒に悩みながら最後まで、声をかけ続ける。 声掛けの過程で迷感をかきたてはしっかりと叱り、頑張っていることには激励をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 前向きな雰囲気が高まり、生徒の新たな取り組みが、たくさん出てくる。 学校自己評価アンケート(保護者)で「私は、本校に子どもを通わせることで、充実感や満足感を感じる。」の肯定的意見80%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> 矢高祭の取り組み状況を見る限りでは、前向きな雰囲気が感じられる。一方で、人間関係などで悩む生徒が増え、教育相談の利用も多い。カウンセリングをこちらが促しても利用しない生徒も多く、アプローチの仕方を工夫する。また、「叱って」の段階で反発する生徒も多く、教師の思いを正しく理解しない生徒が増えた。今まで以上に生徒にしっかりと関わっていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 矢高祭では、ステージでは劇もあり、有志が多く出場したが、その他の場面では、計画は相談されるものの、行動までは至らないことが多かった。 学校自己評価アンケートで「私は、本校に子どもを通わせることで、充実感や満足感を感じる。」の保護者70.0%の肯定意見だった。 	B	
	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共と自我の折り合いのつけ方に課題がある。自分がされたことは、絶対に許さないが、自分がしたことには無頓着で、いわゆる「自分の価値観に自信過剰」な傾向がみられる。 <p>【身に付けさせたい力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 客観力 他を受け入れる包容力 他を許せる寛容さ 	<ul style="list-style-type: none"> 道理や学校の考えを理解できるまで話をする。 生徒同士で校則について考えさせる機会を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒課長講話や警察などの講演など生徒指導に関する全体への話、5回以上 生徒会の校則に関する話し合い5回以上 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部が、話し合いをするために、校則を守る運動を自主的に展開したが、他の生徒はほぼ無関心であった。したがって、話し合いの申し出はない。1年生に課した「学校をよくするためには？」小論文では、校則に関する不平は多いものの、無関心であった。校則を守ろうという規範意識が薄れ、矢掛高校の一員という帰属意識も低い。校歌指導など工夫しながら、学年団と協力して生徒からアプローチできるように、支援する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒課長講話や警察などの講演など生徒指導に関する全体への話は、1・2・3学期始業式、1・3(実施予定)学期終業式に生徒課長講話、2学期終業式に警察からの非行防止講話、学年集会・コース別集会も生徒指導面で行った。 生徒会の校則に関する話し合い1回(課長が生徒会になぜ話し合いを申し出ないのかと聞いた会議が1回)。 	C	B
○進路課	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒によって、自立する力の備わり方が多様である。 <p>【身に付けさせたい力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自立を意識し、そのための知識・技能を確実に習得しようとする力。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりに寄り添う進路指導を実践するために、個人面談を年間6回実施する。 スタディサプリの面談シートを活用し、面談内容を学年と進路課で共有する。 基礎学力の養成が重要であることを生徒に自覚させ、自主自立した学習習慣を身に付けさせるために、全教員で全生徒の指導にあたる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人面談を全クラス年間6回以上実施し、個々に適した進路指導が実践できている。 学校自己評価アンケート③(生徒面談は、進路研究を深めたり進路決定に役立っている)：生徒の肯定的回答80%以上 各生徒の進路目標に応じた自主自立した学習時間が確保できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生は、進路の為の面談を日々個々に面談を実施し、進路保障のサポートをしている。1・2年生の面談は、1学期2回・2学期初めに1回行い、現在までに3回は実施する。 面談の中で、学習時間確保の指導を徹底的にお願いしている。さらに、学習時間の確保させるように指導する。 1年2年ではスタディサプリーを利用した夏休みの課題調査を実施していて、現在検証中である。自主自立の学習への取り組みや学習時間を増加するように面談等を利用して強化している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1・2・3年のすべての学年で、年間6回以上の個人面談を行った。 学校自己評価アンケート③(面談)では、生徒の肯定的回答割合が84.3%であった。 自主学習の充実のためのスタディサプリーの有効活用が今一歩であり、家庭学習時間の確保が不十分であった。 	B	
	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の進路に向かって主体的に行動する実践力が身に付いていない生徒が見受けられる。 <p>【身に付けさせたい力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の具体的な進路目標を設定でき、その実現の為に行動できる力。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路意識を高めるため、クラス単位または学年全体の進路LHRや毎学期初めの学年集会で進路担当が全体への激励などを実施する。 進学や就職について幅広く研究させることで、適正な進路目標を見出させるために、オープンキャンパス等への積極的な参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期初めの進路担当の講話によって、全体の進路意識が向上している。 オープンキャンパスの参加やHPによる進路研究によって、今何をしたいといけなのかを思考し実践できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校生徒全員に進路意識を高める機会として6/10、11に全生徒・保護者対象の進路講演会を校内で実施した。 探究コース2・3年及び希望者生徒対象の共通テスト対策特別講義を校内で実施した。 12月には、1・2年総合コース地域ビジネス科対象の進路フェスタに参加予定である。様々な機会を通して進路意識向上と学力向上の手立てを講じている。 ライフプラン設計の進路講演会を全学年で実施予定である。人生を設計するための講演あり、進路実現及び進路設計に有益な講演を計画している。人生設計に関わる講演で効果があると考えている。 オープンキャンパス参加は、大学専門学校等のチラシを各HRに配布し、HR担任に事前報告の上、積極的に参加を促して2・3年生を中心に積極的に参加している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 全生徒、保護者対象の進路講演会、進路フェスタ、ライフプラン設計講演会、共通テスト対策特別講義と進路講演会、2年生対象の志望理由書作成講演会の実施を通して、進路意識向上と学習意欲の向上につながった。 オープンキャンパスへ積極的に参加する生徒が増加している。 	A	

課	昨年度の課題と身に付けさせたい力	具体的取組	評価指標・達成基準	自己評価(中間)		自己評価(最終)	
				達成状況	評価	達成状況	評価
	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスマナー（TPOに応じた挨拶・返事・敬語）やTPOに応じた身だしなみが不十分な生徒がいる。 <p>【身に付けさせたい力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分から進んで挨拶ができ、的確な返事ができ敬語を使うことを大切に考え行動できる力。 ・TPOに応じた身だしなみを考え自分から行動できる力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・TPOに応じた挨拶・返事・敬語が適切に使えるようにするために、教員などによるマナー講座や日常の全教員による指導を行う。 ・TPOに応じた身だしなみができるよう全教員で指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に比べて、自主的に挨拶ができる生徒が増加している。 ・返事がきちんとでき、敬語が使えるようになってきている。 ・TPOに応じた身だしなみが出てきている。 ・就職や進学個人面接にも自然に対応できる生徒集団になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員で3年生の進路実現の為に個別チューター制を、進学について実施している。就職については、管理職を含めた全教員で、就職個別面談指導を実施している。 ・授業や様々な活動の中で、挨拶・返事・敬語が適切に使えるように全教員で指導している。就職・進学等の面接では、徹底できているが、日頃の生活で、さらに、全教員の協力体制を強化する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進学面では、指定校推薦入試・総合型入試・学校推薦型入試等の面接指導を通してのマナーの向上がはかられている。 ・1、2年生に対しても、将来のことを考えて日頃から全教員でマナー指導を行ってきた。1、2年生には、マナーの習得の不十分な生徒もいる。 ・就職試験でも全教員で対応する方法をとっており、マナーの向上が見られた。 	B
○ESD課	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が地域や社会を支えているという意識や、行事やボランティアへの自主的参加が自分を高めることに繋がる意識が希薄である。 <p>【身に付けさせたい力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会参画力 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事やボランティアを通じて、高めた力を明確化し、振り返りを徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事やボランティアについてルーブリック評価が完成している。 ・参加したほとんどの生徒がルーブリック評価の中間の段階をクリアしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事やボランティアにおいて、高めたい力やねらいを生徒に明確に示すことができている。振り返りの呼びかけは強めているが、不徹底である。 ・やがげ学のルーブリックは完成したが、すべての地域行事で作成できてはいない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の活動の振り返りを参考に、地域活動やボランティア活動時の行動目標（ルーブリック評価表）を作成した。来年度運用し、改善を行いたい。 ・参加した生徒の半数以上が3段階中2段階目（フォロワー）を達成している。 	B
○1学年	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言われたことはするが、指導された同じ場面で同じ行動しかできない。 ・状況判断が伴わないので、内面的な変容や成長を実感できない。 <p>【身に付けさせたい力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生活の基本となる、積極的に自己を高めようとする姿勢、あいさつ、服装頭髪を整える、相手に対する思いやりを持つ、ルールとマナーを尊重する、提出物に取り組む姿勢を身につける力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数クラス編成の利点を活かし、あいさつ、マナー等の基礎基本を、授業やホームルームなどのあらゆる場面を利用して、意義を理解しながら、繰り返し練習する。 ・状況判断ができた良い行動については、教員と生徒の励みとするために、講話などの話題にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校自己評価アンケート⑤の生徒の肯定的回答（1・2）が90パーセント以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつの意義を学年集会や授業で確認をしている。時間が経過すると徐々に声が小さくなることもあるが、概ね、あいさつをしようとする意識は明確に見られる。授業などで、マナーについて各先生方が同じベクトルで注意していることはできているが、固定した一部の生徒に対しては浸透していないので、個別に注意を続けていく。 ・良い行動を認めることは、学年団全体としては行うことはできていないが、現在取り組んでいる、個別の指導に集中しているので、それが軌道に乗れば取り組みを始める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校自己評価アンケート⑤の生徒の肯定的（1・2）回答が84%、⑥は87%であった。 ・学年集会や個別の指導が効果を発揮し、集団として安定してきたため、課題を持つ生徒の個別の支援が行えるようになった。 ・人間関係に起因する事案が頻発し、生徒や保護者に対して継続的な支援が必要な期間が長く続いた。 	B
○2学年	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業での発言・活動が消極的である。 ・家庭学習時間が不十分である。 ・時間や期限を守れない生徒が一定数存在する。 ・進路意識が高まっていない。 <p>【身に付けさせたい力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習をセルフマネジメントできる力 ・進路実現に必要な学力 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な学習のサポートを行うために、ICTを活用して生徒情報を管理し、学年団および全教員が生徒一人一人の情報を共有する。 ・生徒への情報伝達を円滑に行うために、ipadを有効活用する。 ・オープンキャンパスやボランティア活動やキャリアラボ等に積極的に参加をさせる。 ・現在の学校生活が将来・進路につながることを実感できる面談や声掛けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業に取り組み、課題は期日を守って提出できている。 ・規則正しい家庭学習は確立している。 ・進路実現へ向けて積極的に情報を整理し準備をしている。 ・学校自己評価アンケート②（グループ学習・ICT活用）の肯定的回答が70%以上である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に積極的に取り組む生徒は増えているように思う。総合的な探究の時間をはじめ協働的な授業の取り組みでグループワークの中で学びあう環境が築けている。課題については未だ改善されない生徒が一部いる。声掛けをして提出を促すだけでなく、個別の指導やサポートをする。 ・8月より学年通信を発行して、生徒の活動を振り返らせると共に進路指導をかねた情報を提供する。 ・家庭学習時間が少ないのが課題である。引き続き学習習慣の改善へ向けた個別のサポートを続けていく。課題の出し方や内容も改善する。 ・ICTを活用することにより生徒や教員との情報共有が円滑に進んでいる。より効率的な活用を目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に積極的に取り組む生徒は増えたが、課題提出状況はさらに改善する必要がある。 ・学校自己評価アンケート①（授業・課題・小テストへの努力）の肯定的回答は探究コース84.0%、総合コース84.4%、地域ビジネス科92.0%となり、生徒も学校側の取り組みを理解してくれているようである。 ・学校自己評価アンケート②（主体的な学習・グループ学習・ICT活用）の肯定的回答は探究コース72.0%、総合コース84.4%、地域ビジネスコース96.0%であった。 	B
○3学年	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に向かう態度が受け身の生徒がいる。 ・結果を早く求め過ぎ、粘り強く突き進む力に欠ける。 ・家庭学習時間に個人差がある。 ・クラス内の人間関係がうまく構築できていない場面がある。 <p>【身に付けさせたい力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に対し、前向きに学習に取り組む力 ・探究心を持ちひたむきな努力を続ける力 ・クラスの仲間が互いに協力し合い、進路実現させる力 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が前向きになれる情報を学年通信等で発信する。 ・各教科・科目で日々の努力の継続が実を結ぶことを授業や課題を通じて指導する。 ・1日平均3時間の家庭学習時間を確保させ、学習内容についても調査を利用して確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に前向きに取り組む、各生徒が納得のいく進路実現をすることができる。 ・学校自己評価アンケート⑩（学習や活動での充実感や満足感）の肯定的回答が80%以上である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の声掛け等を通じて生徒が前向きになれる雰囲気づくりはできているが、学年通信の発信には至っていない。 ・学習習慣は目標に向かって身についており、家庭でコツコツと取り組めるようになっている。専門学校入試・就職試験はすでに開始されており、生徒は身をもって集中力・継続力・基礎力の大切さを実感している。 ・探究コース生徒の1日平均学習時間は現在200分程度である。各生徒が目的意識・課題を持った学習をすすめることがさらに望まれる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学習への取り組みはきわめて前向きになり、おおむね納得のいく進路が実現できた。 ・学校自己評価アンケート⑩の肯定的回答は普通科総合コース・地域ビジネス科ではほぼ80%ラインであったが、普通科探究コースは66.7%であった。 	B

課	昨年度の課題と育成したい生徒像	具体的取組	評価指標・達成基準	自己評価(中間)		評価	自己評価(最終)		総合評価
				達成状況	達成状況		評価	評価	
○教務課	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今までも、地域連携の取組を充実させてきたが、学校経営目標に沿った、地域連携が学校一丸となったものになっていない。 【身に付けさせたい力】 <ul style="list-style-type: none"> 地域との連携、地域との活動等の中で成長する力 	<ul style="list-style-type: none"> 各部署で企画される地域連携の取組みが円滑に行われるよう調整に努める。 各教科のシラバス作成に際して、地域連携に関する項目を設定することで、生徒も教員も地域連携について意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 諸行事が円滑に行われている。 R6年度3年生の各教科のシラバス作成に際して、地域連携に関する項目を取り入れられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各部署と連絡を密にとり、生徒の人間力向上が図られる有用な行事が行われている。 シラバスについては各教科に依頼済みである。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各担当課・係の尽力により多くの有益な行事が行われた。 シラバスの作成については最終の点検の状況で順調である。 	B		
○生徒課	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 何かのために積極的・自主的にできる生徒が少ない。 【身に付けさせたい力】 <ul style="list-style-type: none"> 企画力 想像力 俯瞰力 	<ul style="list-style-type: none"> 協働の楽しさを味わわせるために、矢高祭などで、生徒の主体的な活動に対して、しっかりと見守り、応援する。失敗しても、諦めないように、手は貸さず、一緒に考えていくスタンスで、克服や成功の体験を一緒に体感し、最後は一緒に喜ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自己評価アンケート⑩「私は、本校の学習や活動で、充実感や満足感を感じる。」の肯定的意見80%以上 学校自己評価アンケート⑥「本校では、クラス活動や委員会活動などの生徒会活動を支援することで、充実した矢高祭になっている。」の肯定意見80%以上。 矢高祭最後のアンケートで肯定意見が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 準備が早くできるように様々な工夫をした矢高祭では、内容はともかく、準備を一生懸命している姿や、工夫を凝らしている姿をたくさん見ることができた。今後も主体的になる仕掛けをして、見守る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自己評価アンケート⑩の肯定生徒は75.5%、保護者70.0%、教職員77.9%だった。 学校自己評価アンケート⑥の生徒の肯定は79.0%であり、矢高祭後の155名回答のアンケートではどの項目も90%以上の肯定回答。意見も肯定的であった。 	B		
	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 幅広い年齢の方と触れ合う機会が少ないため、世代の違う人々と積極的につながる意欲が希薄である。 【身に付けさせたい力】 <ul style="list-style-type: none"> 周囲の人間を敬う心、素直さ。 	<ul style="list-style-type: none"> 登下校中の地域の人に向けて挨拶をし、生徒会・部活動を中心とした「中高連携」や様々な行事で、地域の人に参加していた時に、しっかりとおもてなしの心を表す機会を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート⑤「本校では、服装・頭髪・挨拶などの指導を通じて、規律ある学校生活とマナー向上のために努力をしている。」の肯定意見70%以上 中高連携の数10以上 	<ul style="list-style-type: none"> 教員全体のあいさつ運動や生徒指導係の先生方が毎朝校門に立ってあいさつや服装について声掛けをしていただいている。雰囲気的には、大多数の生徒があいさつができるようになってきた。今後も続ける。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート⑤の肯定生徒は74.9%、保護者は72.2%、教職員84.1%であった。昨年度と比べると、生徒・保護者・教職員とも下がっている。 中高連携の数はジャズバンド部の1つのみであった。 	B		B
○進路課	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「やかげ学」「やかげ学実践」「菌っ子だっぴ」や地域ボランティア活動などの経験が、徐々に生徒の進路実現に有効に機能してきているが、まだまだ不十分である。 【身に付けさせたい力】 <ul style="list-style-type: none"> 「やかげ学」「やかげ学実践」「菌っ子だっぴ」や地域ボランティア活動などの経験を通して、進路目標を明確化し、進路実現に繋げることができる力 	<ul style="list-style-type: none"> 「やかげ学」「やかげ学実践」「菌っ子だっぴ」や地域ボランティア活動などに積極的に参加させることで、地域社会の問題や課題に目を向けさせる。 上記活動に関してクラス担任との面談や事前事後の感想文を作成させることで、活動内容を明確にさせる。 上記活動による経験を通して、自己の進路目標を具体化させ、個々の進路実現をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート④(ESD)：生徒の肯定的回答80%以上 「やかげ学」「やかげ学実践」「菌っ子だっぴ」や地域ボランティア活動などの経験が、あらゆる学習に対する意欲向上となり自分の進路目標の実現につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合コースでは、「やかげ学」を通して校外実習に参加している。また、ボランティア活動などの様々な活動が進路実現の後押しとなっている。 地域ビジネス科では、「やかげ学実践」により、商品開発や校外実習に参加しており、地域の方々や触れ合う中で、進路意識の向上につながっている。 探究コースは、ESD課と連携し「菌っ子だっぴ」を実施し、ファシリテーターとして参加する予定である。事前学習を9回実施予定である。この活動を通して進路意識の向上に繋げさせる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート④(ESD)では、生徒の肯定的回答が80.4%であった。 普通科総合コースの「やかげ学」と地域ビジネス科の「やかげ学実践」では、12月中旬に「やかげ学発表会」を実施し、本校の生徒と多くのお客様を迎えて、生徒自身の言葉で語る場面が多く、素晴らしい発表会を実施できた。 探究コースの「菌っ子だっぴ」により、人の話を聞いたり、まとめたりするコミュニケーション能力などが身に付き、学習意欲の向上が見られた。 	B		
○ESD課	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域活動に参加しながらその本質や社会問題をとらえることが苦手で、活動が受け身になっている生徒がいる。 【身に付けさせたい力】 <ul style="list-style-type: none"> 課題発見力、協働する力 	<ul style="list-style-type: none"> 企画を通じて社会のどのような課題解決に挑戦しているのかを明確にする。 企画を通じてどのような力を高めようとしているのかを明確に示す。 	<ul style="list-style-type: none"> すべての企画が、背景となる社会課題と紐づけられており、生徒に示されている。 企画の参加者募集の説明会を実施し、育てたい力を示している。 	<ul style="list-style-type: none"> 企画の背景となる社会課題を生徒に分かる形で示すまでに至っていない。 参加者対象の説明会において、育てたい力を示すことができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 企画と社会課題の関係について説明会の中で言及できた。さらに生徒に分かりやすい形で提示する方法を考えた。 活動の目的(育てたい生徒像)を提示でき、説明会も開催できた。 	B		

課	昨年度の課題と身に付けさせたい力	具体的取組	評価指標・達成基準	自己評価(中間)		自己評価(最終)	
				達成状況	評価	達成状況	評価
○1 学年	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分を表現することに消極的なため、周りの級友や教員が、生徒や生徒間の問題に気付くことができない。 【身に付けさせたい力】 自分の状況を周りの生徒や教員に説明したり訴える力。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が問題を相談しやすい状況をつくるために、面接や声かけを細かく行う。 問題を察知した教員はすぐに学年団に相談する。 生徒同士で問題を解決できる方策を検討する。 学校や学年を良くしようとする働きかけなど良いことについても同様に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個人や生徒間で生じる問題に対して、生徒が教員に相談する環境が整っている。 生徒から、学校や学年を良くしようとする提案がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 何か問題が生じている時、生徒が教員によく相談をしている。教員側も面談や生徒との日常会話で、課題をよく聞き素早く学年団に話を上げているので対応がしやすい。 複雑な課題を抱える生徒が多く、その対応で手一杯の状況である。 学年の雰囲気づくりや基本的な人間関係の構築の部分では、もう少し生徒に働きかけを任せる。 新生徒会に1年生が多く立候補しており、学校を良くしようとする意欲がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒、担任、主任、生徒課、保健室との連携は素早く行われている。 学年団それぞれのクラスで様々な働きかけを行うことができた。生徒が前面に出ての良い働きかけを積極的に促すものにまで至らなかったが、生徒が自分たちの長所を伸ばそうとする行動が徐々に芽生えてきた。 	B
○2 学年	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> TPO(時間・場所・場面)に応じた服装・頭髪・言葉遣いができていない生徒がいる。 ボランティアや地域活動に消極的な生徒がいる。 自分の意見や思いを伝えることが難しい生徒がいる。 【身に付けさせたい力】 規律を守れる力 積極的な行動力 人の話を丁寧に聞き、体験や情報を言葉や文章で伝えられるコミュニケーション力 	<ul style="list-style-type: none"> 時間と規則を守る生徒を目標に定期的な頭髪服装指導を徹底し、日常的に注意を行う。 地域の魅力化に貢献することを目標に、やかげ学や校外活動などに意識的に参加できるように声掛けや活動サポートを行う。 生徒一人一人との対話・関わりを大切に、心理的安全性を高め、生徒が肯定的な発言や活動を意欲的に伝える環境を築く。 	<ul style="list-style-type: none"> TPOに応じた行動ができ、やかげ学など校外活動で積極的に地域連携ができています。 地域愛が育まれ、相互理解力が向上している。 学校自己評価アンケート②(グループ学習・ICT活用)の肯定的回答が70%以上である。 学校自己評価アンケート⑤(マナー指導への理解)の肯定的回答が70%以上である。 	<ul style="list-style-type: none"> 矢高祭以降、遅刻が目立ってきている。「チャイム前着席」など時間を大切にできる声掛けと指導を継続して行っていく。 井原線内での過ごし方等郊外でのマナーについても指導を行う。 やかげ学がはじまり、地域活動に充実感を持って取り組んでいる生徒が多くいる。意識を他の校外活動にもつなげていき、積極的に地域活動に参加できる生徒を増やしていく。 引き続き学年通信や個別の声掛けで活動から得られる力や楽しさを伝えていく。 地域の知識や関わりが増えたことにより地域への意識が向上していくように思う。ルーブリック等を活用して、活動の中で生徒同士そして地域の方々との協働する力を向上させる。 8月までの今年度ボランティアのべ人数が35人で学年間では一番少ない結果となっている。前年度のべ人数は115人である。声掛けや薦め方を工夫して前年度を超えることを目標とする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート④の肯定的回答は探究コース72.0%、総合コース71.9%、地域ビジネス科96.0%で、探究コース、総合コースにおいてESD活動の価値や意義をもっと持たせて取り組ませたい。 今年度のボランティアのべ人数は75人で前年度115人までは達していない。 学校自己評価アンケート②の肯定的回答は探究コース72.0%、総合コース84.4%、地域ビジネス科96.0%であった。 学校自己評価アンケート⑤の肯定的回答は探究コース76.0%、総合コース68.8%、地域ビジネス科88.0%で、特に総合コースの生徒にマナー指導の大切さが浸透していない。 人間関係をうまく構築することができない生徒が多くおり、話を聴き、指導やサポートする機会が多くあった。 	B
○3 学年	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 物事を具体的に考え、主体的に行動することを苦手としている生徒がいる。 進んで発言したり、指示を出したりすることができない生徒がいる。 相手が意図し、要望することを理解するのに時間がかかる生徒がいる。 【身に付けさせたい力】 自分事として真剣に集中して考え行動する力 受け身ではなく能動的に行動する力 相手の立場に立って行動する力 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間や学校設定教科「やかげ学」の時間などで、考える過程を伝える。 進路の時間において、時事問題について考える機会を作り、おすすめの本・ホームページを紹介する。 ペアやグループで話をする場面を増やし、すすんで発言ができるような人間関係を構築できるような雰囲気を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 物事を表面的ではなく深い部分まで考察することができる。 質問されたらすぐに自分の意見を的確に表現することができる。 学校自己評価アンケート④(ESDの学習や取り組み)の肯定的回答が85%以上である。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間や「やかげ学」の時間に、グループ活動での改善点などを担当教員が伝えている。自己を客観視する機会とすることができている。 進路の時間において、担当教師との面談をしっかり行った。自分の意思をすすんで表現できるような雰囲気づくり、声掛けも継続している。 互いを思いやる心、そして仲間との協調性を育むために、相手の意見を耳を傾けたり、自分の意見を文章で表現したりするトレーニングを活動報告書を活用して行っている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「やかげ学」の時間で身に付いた力を振り返り確認し、それを発表会でのスライド発表やパンフレット作成で形にする努力を通じて、物事を深く考えるトレーニングができた。 全体に対して投げかけられた質問に、主体的に瞬間的に答えることができにくかった。 学校自己評価アンケート④の肯定的回答は85.0%であった。 	B

令和 5 年度学校経営計画・目標および学校自己評価

◎生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、地域の活性化に貢献する学校

- 1 少人数クラス編成による個々の生徒への丁寧な教育の実践
- 2 地域との連携推進による生徒の人間関係形成力伸長の実践

教科	昨年度の課題と身に付けさせたい力	具体的取組	評価指標・達成基準	自己評価(中間)		自己評価(最終)		
				達成状況	評価	達成状況	評価	
○国語	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の正解を待つなど、学習姿勢が受け身で、自分自身で解答を導き出す粘り強さが不足している。 <p>【身に付けさせたい力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論理的・批判的に考えたり、共感や豊かに想像したりしたことを伝え合う力 ・実社会に必要な国語の知識や技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク、ペアワークなどの活動を通して表現する機会を設けることで、自分の意見・感想を持たせ発表させる。 ・週末課題、授業内での小テスト、辞書の活用などをする中で、自信を持って言語活動ができるような語彙力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク・ペアワークで活発な言語活動の様子が見られる。 ・課題や小テスト、スタディサプリ、辞書の活用などに積極的に取り組む様子が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークやペアワークで意見を述べ合おうとする姿勢が見られた。根拠を明確にするなど、相手が納得したり共感したりするような発言ができるように引き続き指導する。 ・課題や小テストなどへの取り組み方は二極化している。主体的にスタディサプリに取り組むように呼びかけているが、課題にならない限り活用していない生徒がほとんどである。授業内で知識を活用するなどし、学習への意識づけを行う。 	B		<ul style="list-style-type: none"> ・他者の文章を読んで感じたことや考えたことを伝える、ディベートで根拠を示しながらチームとしての意見を発表し、反対意見も真剣に聞くなど、グループワークやペアワークで意見を述べ合う姿勢が見られた。 ・課題や小テスト、スタディサプリなどは、前向きに取り組もうとし始めた生徒もいる。入試も含め将来に必要な学力であることも伝えながら、意欲的に取り組むよう声掛けを続ける必要がある。 	B
○地歴・公民	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的好奇心につながる刺激を受けても、科学的な視点で探究する力が不足している。基本的な知識の定着率が低い。 <p>【身に付けさせたい力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な知識や読解力を基盤にして、論理的に分析・説明したり、表現する力をつけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「わかる授業」を基礎に指導していく。 ・探究コースでは、小テスト実施で基礎事項の定着を図り、校外模試での得点を自信に変えさせ、受験教科・科目としての自覚を高めさせる。また、教科書・図表などを活用して、ワークシート（正誤問題や論述問題）に取り組ませ、論理性や思考力・表現力を身につけさせる。 ・2年生総合コースの地域研究では、情報収集や発表のためにiPadを活用する。 ・総合コースや地域ビジネス科の受験生には、時事問題なども含めて幅広い分野の事項について指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートやテスト問題の記述から、思考力・判断力など知識以外の力を身につけている。 ・探究コースでは、定期考査や校外模試での得点を背景にして地歴・公民科に対して受験教科・科目としての意識を持っている。 ・総合コースの地域研究では、レポート制作や発表への取り組みの前進が身についてきている。 ・ワークシートなどから、実際の社会問題の中で、主権者・消費者・地域社会の一員など様々な視点から自分の中に芽生えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えようとする姿勢は見受けられるも、授業時に整理できなかったワークシートやノートを持ち帰ったまま提出しない生徒が多い。 ・校外模試の結果を見る限り、該当生徒は地歴・公民科として受験教科として少しずつ復習もできている。 ・地域研究のレポートによると、地域社会や地域企業に関する関心が徐々にではあるが高まっている。 ・実際の社会問題の中での主権者・消費者などの視点はまだまだ芽生えてきているとはいえない。 	B		<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に思考力・表現力を鍛える活動には取り組むことができたが、自宅での学習が不十分であるため、知識そのものが定着度の低い生徒が多い。 ・教科書を読み切ることのできない生徒が多く、教科書を使って自力で授業内容を再現することが難しいため、必要とされる知識も小間切れの知識がほとんどであり、入試問題に対応できていない。 ・共通テストで8割以上の得点を出した生徒もあれば、本番で実力を発揮できなかった生徒もおり、本番に向けての学習指導も個別指導の不足を痛感している。 ・地域研究の学習活動を通じて地域課題への理解は少しずつではあるが進んでいる。一方で、国の内外で発生している諸問題に対しては関心度が高まっているとはいえない。地理総合の防災教育ではタブレットを活用することができた。 	B
○数学	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内でタブレット端末活用の研究が進んでいない。 <p>【身に付けさせたい力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用する力。 ・粘り強く考え数学的論理に基づいて判断できる力 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットのアプリケーションを使うことで、教えたり教えられるたりに学び合う授業を実施し、対話の中で思考力・表現力をはぐくみ、協働する力を身につけさせる。 ・学科、コース毎に授業課題や宿題の内容・分量を精選することで、少ない量で大きい効果を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末の活用により、効率的な家庭学習習慣が身に着き、基礎学力が向上する。 ・各学年・クラスの学習到達ゾーンD・Cが減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アプリケーションを利用した課題学習の実施など活用が図られている。 ・授業において思考力を鍛える取り組みが行われている。 	B		<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを活用した授業を展開することができた。また、一方的な講義形式の授業のみでなく、生徒同士による学びあいを取り入れた授業も行ってきた。 ・知識の習得のみでなく、思考力判断力を身に付ける教材も取り入れた。 	B
○理科	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験手順をイメージし、実験操作の科学的な意味を考察することが苦手である。 <p>【身に付けさせたい力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学的な手法を用いて分析し、実験事実に基づいて現象を考察する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとにまとめた実験をじっくりと行い、基本的な操作方法を習得させ、実験操作の意味を考えさせる時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとにまとめた実験を行っている。 ・基本的な実験操作を正確に行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・映像教材を取り入れながら反転学習によって、実験時間を確保できている。 ・基本的な操作には慣れてきたが、操作の意味まで考えが及んでおらず、継続して指導を行う。 	B		<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとのまとめた実験をほとんどの単元で行うことができた。準備や考察の時間を十分確保できないものもあったので、精選していきたい。 ・基本的な実験操作は習得できた。操作の意味を考えようとする場面が増え、成長を感じることができた。 	B
○保健	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームでの学習で、状況に応じてチームや自己の役割を提案できない。 ・反省が次計画に生かされていない。 <p>【身に付けさせたい力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合える生徒【やりきる力】 	<ul style="list-style-type: none"> ・選択した運動について、チームや自己の動きを分析して、良い点や修正点を指摘する。 ・準備運動、補強運動の実施 ・規律ある行動 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームや自己の課題を解決するための練習の計画を立てている。 ・練習やゲームをおこなう場面で、チームや自己の活動を振り返り、より良いマナーや方法について提案している。 ・準備運動を丁寧に実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループの活動において、はっきり表れている課題を、活動内容に反映しきれていない。iPadを用いて、練習方法を調べさせ活動の向上を図る。 ・授業ノートの記入に手抜きをさせず、しっかり準備して授業を受けるように指導する。 ・準備運動の習慣は、定着してきたが、さらに質を向上させるように指導する。 	C		<ul style="list-style-type: none"> ・チームや自己の課題解決につながる活動計画の準備ができていない。 ・練習やゲームにおいて、振り返りは行えた。 ・準備運動の取り組みは、習慣化された。 	B
○芸術	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい表現を苦手とし、自信をもって表現できない。 <p>【身に付けさせたい力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の課題を見つけ、実践に生かす力 ・他の生徒の作品の課題を指摘できる力 	<ul style="list-style-type: none"> ・iPadを有効活用し、新しい表現の良さを学ぶ。 ・他の人の作品を批評する回数を増やし、語彙力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞活動において、作品の良い所と課題を見つけ指摘し合うようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の鑑賞機会は確保できた。iPadを活用し、記録、比較のための活動を取り入れている。 ・批評のレベルは上がっており、基本的な表現の方法から指導していく必要を感じている。 	B		<ul style="list-style-type: none"> ・教科書教材やその他の教材を用いて鑑賞活動を行ったり他者と相互批評を行ったりすることで、芸術に対する見方・考え方を働かせ、専門用語を用いて批評し、表現活動に生かすことができるようになった。 	A

教科	昨年度の課題と身に付けさせたい力	具体的取組	評価指標・達成基準	自己評価(中間)		自己評価(最終)	
				達成状況	評価	達成状況	評価
○外国語	【課題】 ・中学校内容の語彙や文法であっても苦手としている生徒が多く、基本事項の理解ができていない。 【身に付けさせたい力】 ・英語学習に積極的に取り組む姿勢 ・わからないことなどを生徒間で話し合ったり、教え合ったりする力。	・それぞれのコース・科のレベルに合った教材を使用して、基本的なことから丁寧に指導する。 ・授業において、生徒どうしが授業内容について話をする時間を増やす。 ・単語テストや文法テストなどを定期的に行う。	・単語テスト等の合格点を7割以上とし、全体の半数は合格できる。 ・ペアやグループ学習で互いに教え合って問題演習等にとりくむことができていく。	・学年が上がり、繰り返し学習することで定着し、合格率が上がってきたクラスもある。 ・iPadなどで検索して教科書の内容を理解している。まずは個人で考え、複数で共有するための問いや時間を作るなどの工夫が必要。	B	・生徒の合格率も概ね7割を達成できているが、教科書やそのほかのテストで出題された際に活用するまでに至っていない。覚えたものを他の場面で活用できるように、学習場面を設定していく必要がある。 ・教科書内容についてペアやグループで話し合い、問題を解いたり、まとめたりする学習に積極的に取り組む生徒が多い。iPadの使用・活用の仕方について丁寧な指導が必要。	B
○家庭	【課題】 ・事前学習が足りなく、思いが伝わらないところがある。 【身に付けさせたい力】 ・実習を通して協働する力。	・経験値を増やし事前学習や準備の大切さを感じさせ、協働する力を養うために、調理実習、被服実習、保育実習、服のカプロジェクトなど多くの実習を取り入れる。 ・実習を実施する前に事前学習をする。	・実習ごとに振り返りを行い、肯定的な振り返りが7割以上。	・保育実習(折り紙・切り絵・妊婦体験)被服実習(エプロン)は肯定的な振り返り7割以上	A	・全体的に肯定的評価が高く平均9.8%であった。調理実習の振り返りも7割以上の肯定的な記述があった。	A
○情報	【課題】 ・複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだす力や、情報技術を適切かつ効果的に活用する力が乏しい。 【生徒像】 ・情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して情報社会に主体的に参画しようとする生徒	・コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に活用した学習活動の充実を図る。	・実習を通して、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め、効果的に活用できるようになる。	・言葉の意味と現実とを結びつけることに難がある。パソコンの操作技術に個人差があるので、パソコン操作よりも、情報発信力の教科にシフトしていく。	B	・プログラミングを通して、物事を論理的に考えようとする力がついてきた	B
○商業	【課題】 ・商業科目で身につけたビジネスに関する知識を、実践的な場面で、自ら考え活用できない。 【身に付けさせたい力】 ・ビジネスの視点を活用し、地域や社会における諸問題を主体的に解決しようとする姿勢および解決できる力。	・各科目でiPadを活用し、科学的根拠をふまえて協働学習する。 ・地域や社会の課題を題材にし、身近な諸問題に関する解決策を考察し、気づきや学びをプレゼンテーションさせる。 ・Web上にあるオープンデータを活用する場面を設定する。	・様々なデータを活用しながら、協働学習に主体的に取り組んでいる。 ・地域や社会における諸問題を、ビジネスに関する知識を活用しながら課題解決し、その取り組みや内容を、プレゼンテーションしたりアウトプットができる。	・各科目で効率的にiPadを活用し、振り返りや相互評価を行い、主体的に授業に取り組んでいる。 ・オープンデータなどを活用し、多角的に課題を考察しようとしている。	B	・年度当初に策定した具体的取り組みを実施することで、商業科目で学んだことを、地域や社会における諸問題に関連付けて、主体的に解決しようとする姿勢及び力を身につけることができた。 ・協働学習する場面や、自らが学んだことや感じたことを全体へアウトプットする場面を増やすことができた。	B
○ESDタイム(総括)	【課題】 ・身近にある様々な困りごとから、課題を発見し、解決に向けたプランを考え、実行する経験が不足している。 【身に付けさせたい力】 ・課題を発見し、自分事としてとらえる力	・課題解決型学習のカリキュラムを導入する。 ・外部機関と積極的に交流し、課題解決型学習の手法を校内に広げさせる。	・1年生の全生徒が課題解決型学習に取り組んでいる。	・1年生は、1学期に地域探究のための視点を獲得するプログラムを修了できた。 ・エキスパート教員と協力し、課題解決型学習の流れを構築し、実施していく。	B	・1年生全員がPBL型学習に取り組めた。一部のグループは校外での発表を経験でき、活動のモデルとなっていた。 ・2学期に1年生の中間発表を開催し、外部講師の指導を受けることで、生徒、教員とも課題解決学習の意義を共通認識できた。	A
○やかげ学	【課題】 ・具体的内容・地域の特性、地域との関わり方を知らない生徒が多い。 ・基礎学力、必要なマナーが定着していない。 ・主体的に行動する力に欠けている。 【身に付けさせたい力】 ・矢掛町の特徴・強みを理解し、地域愛を育む力 ・基礎学力 ・相手の立場を常に意識した行動をとる力 ・自ら課題・目標を設定し、その解決・達成に向けて邁進する力	・矢掛町主催の「まちづくり出前講座」を実施する。 ・1学期中間考査・1学期期末考査を実施する。 ・日頃の何気ないやりとりにおいて、基礎学力を確認し、マナーについては講座を設定する。 ・新たな「気づき」を増やし、受け身ではなく主体的に動く大切さを実感させる指導を、各回の「やかげ学」授業で取り入れる。	・「まちづくり出前講座」の内容・要点を70%以上理解している。 ・授業から基礎学力を身に付けている。 ・常にマナーを心がけ、相手の立場に立った行動がとれる。 ・活動報告書で目標を明確に設定し、具体的な反省事項を書くことができる。さらにレベルアップした目標も考えることができる。	・「まちづくり出前講座」ではメモをとりながら話を聞き、要点をまとめることができた。内容に関する2回の考査の平均得点率は62.4%だった。 ・職業人として必要なマナー講座を実施し、マナーの大切さを学んだ。物の渡し方や、外部の方への言葉遣い、ちょっとした気配りなどの行動として活かされている。 ・ルーブリックを使用して、自己を客観視しながら活動報告書に記載できるよう努力している。主体性を高めるために、継続した指導を行う。	B	・「まちづくり出前講座」の中の言葉遣い・マナー、観光振興、農業の分野の考査において70.3%の得点率であった。 ・日頃の授業での基礎学力の習得には個人差があるが、生徒は実際に児童たちに教えることで、その大切さを痛感した。 ・相手の立場に立った話し方・振る舞い方が自然にできるようになった。 ・ルーブリックを意識した目標設定に徐々に慣れてきた。実習先に各人のアイデアを提案し、実習先の方々と相談・計画をしながら、より質の高い活動につなげていきたい。	A

令和5年度学校自己評価に関するアンケート <集計結果> 生徒・保護者

1	2	3	4	5
そう思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	そう思わない	わからない

質 問	生徒<全学年>			保護者<全学年>		
	1・2	3・4	5	1・2	3・4	5
①本校は、授業を中心に、課題や小テストに向けた家庭学習を通じて、学力向上のために努力している。	83.9%	11.3%	4.8%	71.3%	18.8%	9.9%
②本校では、一斉授業に加え、課題発見と解決に向けた主体的な学習、学び合いなどの対話的な学習（グループ学習）、ICTを活用した授業が展開されている。	78.3%	16.1%	5.7%	75.2%	9.9%	14.9%
③本校での生徒面談や保護者懇談は、進路研究を深めたり進路決定に役立っている。	84.3%	11.7%	3.9%	79.2%	17.8%	3.0%
④本校でのESD（持続可能な開発のための教育）の学習や取組（「ESDタイム」「やかげ学（実践も含む）」等）は、将来への視野を広げ、学習意欲を高めている。	80.4%	14.3%	5.2%	79.2%	11.9%	8.9%
⑤本校では、服装・頭髪・挨拶などの指導を通じて、規律ある学校生活とマナー向上のために努力をしている。	79.1%	15.2%	5.7%	76.2%	19.8%	4.0%
⑥本校では、クラス活動や委員会活動などの生徒会活動を支援することで、充実した矢高祭になっている。	87.0%	9.1%	3.9%	81.2%	9.9%	8.9%
⑦本校は、校内や学校周辺の美化と安全のために努力している。	83.5%	12.2%	4.3%	83.2%	6.9%	9.9%
⑧本校は、ボランティアなどの社会貢献活動の参加に積極的である。	88.7%	7.8%	3.5%	88.1%	4.0%	7.9%
⑨本校のホームページを見ると、学校のことがよくわかるようになった。	78.3%	9.1%	12.6%	83.2%	8.9%	7.9%
⑩私は、本校の学習や活動で、充実感や満足を感じる。（生徒） ⑩私は、本校に子どもを通わせることで、充実感や満足を感じる。（保護者）	84.3%	10.9%	4.8%	69.3%	20.8%	9.9%